



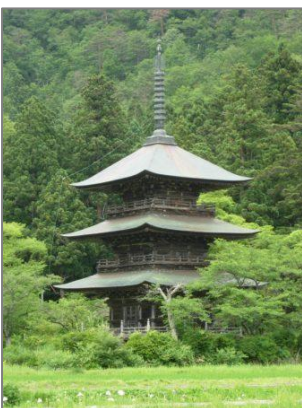
## まほろばの里（山形編）

10月27日投開票の衆院選で、15年ぶりに自民・公明が過半数割れとなり、国政トップを選ぶ「首相指名選挙」の期日も迫っていますが、2024年度補正予算編成・経済対策、2025年度予算編成が円滑に進むのか、経済活動に悪影響を与えるのか懸念されます。

国際情勢に目を転じてみましても、米国大統領選挙ではトランプ氏が勝利しました。民主、共和両党のどちらの候補が勝つにせよ、選挙結果の受け入れを巡って社会の分断がさらに加速する可能性も予想され、ウクライナ問題や中東問題の落としどころが喫緊の課題であり、しばらくは予断を許さない情勢です。

さて、一年間楽しませてくれたメジャーリーグも、ワールドシリーズでのドジャースの逆転劇で終わりを告げました。連日、大谷翔平選手の活躍に熱狂してきた私を含め多くのファンは、早くも“大谷ロス”を感じているのではないのでしょうか... SNSでは大谷選手の快拳を喜ぶ声と共に「おめでとうけど明日から試合はないんだよな...」「ワールドシリーズも終わってしまい、楽しみが減ってしまった...」「完全に大谷ロスだ...」と寂しさを感じるファンのコメントが寄せられています。

事務所通信 309号「北のまほろば」では、作家の司馬遼太郎が青森県の津軽地方を讃えたことを取り上げご紹介しましたが、県内にも「まほろばの里」と呼ばれる地方（町）があり、先月18日にその町を訪れる機会がありました。ちなみに、「まほろば」とは、“山に囲まれた平地で、実り豊かな住みよい場所”のことだそうです。確かに訪れた高島町はグルリと山に囲まれて、サクランボやラ・フランス、米などの生産が盛んなうえに、縄文時代より先住民が生活をし、その遺跡も数多く発掘されている町です。美しい三重塔が印象的な安久津八幡神社や、県立うきたむ風土記の丘考古資料館を中心とした公園に限らず、街並み全体が文化同様に風情も感じさせてくれました。これまで訪れる機会も少なく、私の場合は資格試験や子供の入試に当たっての「亀岡文殊堂」に祈願した思い出に限られていましたが、この度の観光旅行は、見どころが盛沢山ありました。そして、私が訪れた数日後には、地方では珍しい大イベントも連日開かれたようです。10月20日にはクラシックカーレビューin高島2024には、全国各地から車マニアが大勢集まったようです。そして一週間後の10月27日には、2025年9月に東京で行われる世界選手権の代表選考を兼ねた陸上男子35キロ競歩の日本選手権も高島町で行われました。（旭化成所属の川野将虎選手が2時間21分47秒の世界記録で優勝しました。）地方の町での全国的に注目されるイベントの開催は、「まほろばの里」ならでは出来たことではないでしょうか...



観光バスの添乗員の話によれば、隣接の街（米沢市・長井市・南陽市・上山市）の市民からは、「...高島は昔から、変わり者が多いところ...」と揶揄されてきた歴史もあるような、ゆかいな仲間が多く住む町のような感じでした。保存されている歴史建造物や街並みの美しさ、そして大らかな町民気質においても、「まほろばの里」にふさわしいと感じたところでした。

